

自己評価報告書(最終報告)

報告者

教員養成特別コース
／端村 達也

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

- ①教職員大学院の実務家教員として、学校現場で必要とされている教師の力量形成について、理論と実践の統合を図るための研究を実施する。
- ②鳴門市の小学校と連携を密にし、学校教職員との情報交換を通して、学校現場が抱えている問題に積極的に関わることにより、生きた教材となるよう計画をする。
- ③小学校教育学を基盤として、教師として必要不可欠な学級経営や生徒指導力、協働力の研究を推進する。

2. 点検・評価

- ①現場で必要とされている教師の力量形成について、「学級経営の基礎的理解と実践」「教科等指導の基礎的理解と実践」等の授業やゼミを通して、実務家教員として小学校での教職経験をもとに、院生たちとともにわかち合い理論と実践を図った。また、実習指導教員として、最終成果報告書に携わる作成に、携わった。
- ②計画的に学校訪問を実施し、鳴門市の小学校と連携を密にしたり、管理職をはじめ学校教職員と情報交換を行ったりすることにより、学校現場が抱えている問題に直接関わり、教師として必要不可欠な「学級経営力」「生徒指導力」「協働力」を積極的に推進した。
- ③実習では、本コース院生が円滑にかつ効果的に進めることができるように、計画的に学校訪問をするなどして、実習校の管理職やメンターとの連携・協力を努めた。また、2年次生や1年次生の実習受け入れが、スムーズにできるように、学校訪問を実施した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①学生相談への対応が円滑に行えるようemailを活用したり、週録を使って細かい指導に心掛けたりする。
- ②講義時間内に限らず、学生の質問や悩み等、いつでも気軽に応じることができるように、話しやすい雰囲気づくりに努める。
- ③本学で行われている模擬授業や個人面接、集団面接に積極的に関わるようにする。

2. 点検・評価

- ①学生の相談への対応がスムーズに行えるようにe mailを活用し、教育相談を行った。また、実習週録等をもとにしながら、講義時間内(ゼミ)に限らず、随時、院生の質問や相談にいつでも気軽に応じ支援した。
- ②就職支援チーム主催の教採実技ガイダンスの模擬授業・個人面接面接官として、就職支援を行った。(2回)
- ③教員採用試験対策(筆記試験対策・集団、個人面接)を講義時間外に実施した。〈週1回程度〉
- ④定員充足のために、大学訪問を実施した。(2012年度 教員養成特別コースは、定員10名を1名上回る11名の入学)しかし、高度学校教育実践専攻としては定員確保ができなかった。次年度の課題として重く受けとめ、定員充足に努力したい。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- ①小学校学校教育における教育課程の開発や授業の開発等に関する研究を行う。
- ②教育実践力の向上をめざす学生たちのための評価のあり方を検討する。
- ③小学校教育の授業理論と実践に関する研究を進める。

2. 点検・評価

- ①学校教育における教育課程開発や授業開発に関する研究を行うとともに、教育実践力の向上をめざす院生たちのための評価のあり方(サルコーを取り入れた評価)を検討している。
- ②小学校教育の授業理論と実践に関する研究を行いながら、現場での研究会(鳴門市小学校研究会)に参加した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

部会議やコース会議等に参画し、任務内容を推進する。

2. 点検・評価

- ①専攻会議や部会議、コース会議に参画し、その任務内容を推進した。
- ②地域連携委員として第33回・第34回鳴教大教育・文化フォーラムの企画・運営に携わり、シンポジウムでは、コーディネーターを務めた。
- ③平成24年度鳴門教育大学大学院入学者選抜試験班の一員としてとして、問題制作や口述試験を担当した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①徳島県, 鳴門市小学校研究会に参加する。
- ②鳴門市の小学校を中心とした教育支援活動を行う。
- ③スポーツ少年団やサッカー協会等の企画・運営や教育支援アドバイザーの活動等により, 社会スポーツの向上を支援する。
- ④地域連携委員会の一員として, 社会連携の推進を図る。

2. 点検・評価

- ①鳴門市小学校研究科体育部会の行事(鳴門市小学校体操発表会等)に参加して, 鳴門市内の体育部員と協働して研究を推進した。
- ②教育支援アドバイザーとして, 長期休業中において, 体力向上講座を開催するなど, 鳴門市内小学校児童の体力の向上に貢献した。
- ③徳島県サッカー協会女子副部長として, 四国女子リーグや県サッカー大会等の企画・運営を行い, 社会スポーツ力の向上を支援した。また, 第16全日本女子ユースサッカー選手権四国大会で2年連続優勝し, 全国大会に出場した。さらに, 山口県で開催された第66回国民体育大会女子サッカー競技に, 徳島県選抜チームのメンバーとして, 本チームより3名招集され活躍した。
- ④鳴門市教育委員会の委嘱を受け, 委員として連携・協働を図った。(教育論文審査, 鳴門市情報推進協議会)

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

特記事項なし